

① 研修テーマ

一人一人の心の動きを大切にする保育をめざして

② テーマ設定の理由

昨年度までの2年間で『子どもの心に寄り添うとは～職員の語り合いを通して～』というテーマで、研究・研修を進めてきた。各クラスがそれぞれ1回は保育公開し、実際の保育から学ぶことができた。また、月に1回の語り合いでは、テーマに沿って話し合い、幼児理解を深めることができた。年度末の職員アンケートでは満足感や達成感を得た結果となった。

今年度は、昨年度までの研究・研修を土台にし、子どもの「やってみたい」「どうしてかな?」「試してみたい」という一人一人の心の動きを捉え、その心の動きを大切にしたい保育者の関わりや環境の構成について、研究・研修を進めたいと考え、本テーマを設定した。

③ 研修内容・研修方法

研究内容	① 『一人一人の心の動きを大切にする保育』とはどういう保育なのか、一人一人の心の動きを大切にする保育者の関わりや環境の構成とはどのようなものかを探っていく。 ② 『一人一人の心の動きを大切にする保育』に有効な保育者の関わりや環境の構成、『資質・能力の3つの柱』との関連を確かめ合う。 ③ 『教育保育の中で大切にしたいこと』について様々なテーマを設定し、語り合う。互いの保育観を知り、認め合いながら職員間の交流を深め、チームとして教育保育活動をスムーズに行うことに活かす。
研究方法	① 各クラスが年に1回公開保育を行う。事前に短期指導計画及び所定のシートを研修参加者に渡し、参加者はその書類を持って参加する。 参加者は『資質・能力の3つの柱』の視点を持ちながら教育保育を見ること、所定のシートに子どもの姿を読み取りながら記入し、後の研修会に持ち合う。 ② 各クラスが年に1回実践事例を書く。実践事例を基に語り合い、『一人一人の心の動きを大切にする保育』にはどのような保育者の援助や環境の構成が有効なのかを見出す。シートを用いて、実践と『資質・能力の3つの柱』との関連を見出す。 ③ 月に1回の職員会議にて、語り合える時間を確保して、より多くの職員で、グループワークを行うことで語り合いを深める。グループは、月毎に分ける。様々な職員との交流が深められるよう、職種・学年・保育年数などで振り分ける等工夫する。

④年間予定表

月	日	研究内容・研究方法
4	18	テーマ設定準備 ・前年度の研究テーマを踏まえ、今年度学びあいたいことを出し合う。
	21	主担会議
5	19	語り合いの会①『一人一人の心の動きを大切にする保育①』
	30	公開保育① 幼児：にじ組
6	22	語り合いの会②『一人一人の心の動きを大切にする保育②』 『保育について語り合おう①』
	27	公開保育② 乳児：みかん組
7	20	語り合いの会③『エピソード① もも・いちご組 はな組 そら組』
	28	公開保育③ 乳児：いちご組 幼児：つき組 ひかり組 うみ組 講師：大阪総合保育大学 教授 瀧川 光治氏
8		
9	6	公開保育④（個人）（個々への丁寧な関わり方について） ほし組 はな組 そら組 うみ組 乳児組 講師：武庫川女子大学 教授 橋詰 和也氏
	20	語り合いの会④『一人一人の心の動きを大切にする保育③ 自分が大切にしていること』
10	20	語り合いの会⑤『エピソード② みかん組 つき組 にじ組』
	26	公開保育⑤ 乳児：もも組
11	16	語り合いの会⑥『保育について語り合おう②』
	24	公開保育⑥ 幼児：ほし組
12	15	語り合いの会⑦『一人一人の心の動きを大切にする保育④ 主体的な姿とは』
	14	公開保育⑦ 幼児：そら組
1	24	語り合いの会⑧『エピソード③』ほし組 ひかり組 うみ組
	25	公開保育⑧ 幼児：はな組
2	6	公開保育⑨（個人）（個々への丁寧な関わり方について） つき組 にじ組 ひかり組 乳児組 講師：武庫川女子大学 教授 橋詰 和也氏
	21	語り合いの会⑨『保育について語り合おう③』

『一人一人の心の動きを大切にする保育①②』 人権の発表に向けての語り合い

『一人の心の動きを大切にする保育③④』

『保育について語り合おう①②③』 保育の悩みをざっくばらんに語り合う

『エピソード①②③』 保育の実践と資質・能力の3つの柱とがリンクする書式でのエピソードを語り合う